ブドウの開花期から収穫前までの管理

【本記事に関する問い合わせ】川越農林振興センター 農業支援部 技術普及担当　☎049-242-1804

ブドウの管理について

今回では、ブドウの開花後～収穫前までの管理について説明します。この期間の管理は果粒肥大や糖度上昇など、大きな影響を与えるため、適期・適切な管理をしていきましょう。

1　摘房（果房整理）

【目的】摘房の目的は、適正な収量調整によって高品質な果房を連年にわたって安定生産するために行います。

【目標着房数】適正な着果量は樹や園地によって異なりますが、巨峰やピオーネなどで10ａあたり収量を1．4ｔとして3，500房、シャインマスカットで収量を1．8ｔとして3，300房が上限となります。クイーンニーナなどの赤系品種では、着色を考慮して目標収量を1．2ｔとし、着果量は2，400房程度としましょう。

【方法】種無し栽培では、2回目のジベレリン処理前に目標着房数の2～3割増しを目処に予備の摘房を行って、幼果初期の果粒肥大を促しましょう。具体的には、肥大が遅れている果房、果軸が曲がってしまった果房などを落とします。開花後は着粒が確認され次第摘房を始めて、2回目のジベレリン処理までにほぼ目標着房数まで摘房を済ませましょう。

種あり栽培では、天候や樹勢によって花震いが多く発生する危険性があるため、開花前の摘房は控えて多めに花穂を残します。開花後に着粒が確認され次第、できるだけ早くから摘房を始めて、果粒の肥大を図っていきましょう。

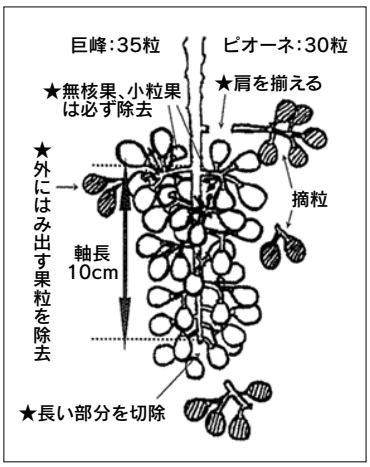
2　摘粒

【目的】摘粒は、ブドウの品質を決める重要な作業です。摘粒が遅れると、一粒あたりの果粒肥大が劣り、袋かけが遅れ病害虫の被害を受けやすくなってしまいます。

【方法】種無し栽培では2回目のジベレリン処理前に小果や内向き果、変形果等を除去する予備摘粒を行うと、果粒肥大につながります。

軸長は目標とする房重によって異なりますが、シャインマスカットでは花穂の下部から10㎝、粒数40粒程度とします。

種あり栽培での巨峰・ピオーネでは、花穂の下部から10㎝程度とし、房尻と岐肩を切ります。（図参照）



図：巨峰・ピオーネの摘粒

3　新梢管理

新梢（しんしょう）が混み合って棚が暗い場合は、交差した枝など誘引を見直すとともに、強勢な枝を中心に間引きを行います。ただし、果実軟化期直前にかけての極端に強い間引きや摘心はかえって生理障害を招き、着色不良や房枯れ、日焼けの原因となるので控えましょう。強く伸びる副梢（ふくしょう）は3～4枚の小さいうちに、1～2枚の葉を残して整理しましょう。

品種ごとの棚の明るさの目安は、次の表を参考にしてください。

品　種	棚下の影が占める割合
赤系品種	60～70%程度
黒系品種	70～80%程度
黄緑系品種	90%程度

表：品種ごとの棚の明るさの目安

4　袋かけ・笠かけ

近年発生の多い晩腐病・黒とう病や、日焼け対策として袋と笠を併用しましょう。

病害虫防除の観点から、摘粒終了後に薬剤防除を行い、ただちに袋かけを行うようにしましょう。

令和2年5月15日の登録情報で作成。
農薬を使用する際には、必ずラベルを確認しましょう。
農薬の飛散防止に努め、農薬の使用記録簿を付けましょう。